

北九州市環境ミュージアム 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成30年10月19日（金）14:00～17:00
- 2 場 所 北九州市環境ミュージアム 2階 実習室
- 3 出席者 (検討会構成員) 松藤構成員（座長）、三宅構成員、小島構成員
植田構成員、泉構成員
(事務局) 環境局環境学習課長、環境学習係長及び担当職員

4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第、審査にあたっての留意点等について事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出

- 応募団体（チームZ共同事業体）による提案に関するプレゼンテーション
- 応募団体（チームZ共同事業体）の提案に関する質疑応答

(構成員) 日常の事故防止、防犯防災対策、非常時の管理体制についてどう考えるか。

(応募団体) 緊急消防、警察、病院等との連絡体制を整え、速やかに非常時対策をとれるよう準備する。

(構成員) 被害者の判断にて110通報をお願いするとあるが、管理者としてどのように絡むのか。

(応募団体) 市とも連絡を取り合いながら、事前にできるだけのコミュニケーションをとって対応を図っていきたい。

(構成員) 収入計画の「地球の道」の積算根拠が500円×400人となっているが平成29年度の有料実績が77人で、減免もある中、400人は実現可能か。

(応募団体) 「地球の道」単独では難しいと考える。ドームシアターでのVR体験（過去の地球等）とセットで500円とし、ツアーパッケージとして旅行代理店など民間への積極的PR、観光誘致を行いたい。

(構成員) 展示説明スタッフをどのように雇用し、初期教育するのか。
また、「市民環境力」についてどう考えるか。

(応募団体) 市と相談の上、展示物のレイアウトを変更したい。VR体験や操作が簡単なデジタルサイネージを活用し、4か国語対応とし、スタッフをなるべく使わない体制を作りたい。モニター関係やIT部門の強いスタッフと、看板、サイン、デジタルサイネージを組み合わせで運営していく。

(応募団体) 「市民環境力」に関して、私自身もどこまで環境に向きあっているのか、自問自答している。だからこそ、環境ミュージアムを、環境にあまりなじ

みのない人でも学べるように、PR活動を中心として、もっと深くやっていければと考える。

(応募団体) スタッフの確保については、元々環境は当社の専門分野でないので、許す限り現状の既存スタッフを含めての採用や、人材確保会社にて対象となりうる人選(事前知識、基本情報を理解した人材)を行う等の体制で行っていく。

(構成員) 門司港レトロ、小倉城での経験を踏まえた具体的なイベントや集客ポイントの活かしどころは。またHPリニューアルのポイントは。

(応募団体) 当団体はVRイベント、お化け屋敷を得意としている。ドームシアターでの環境お化け屋敷等を考えている。実際に県内の文化施設、美術館などでお化け屋敷を集客の施策として行っており、決して難しい例ではない。

(応募団体) 門司港レトロ、小倉城での経験、集客のポイントの活かしどころとしては、かき焼きまつり等で当社単独では無いが、数万人規模に対応した経験がある。まず人を集める事の策はある。観光分野ではとにかく人を集めれば良かったが、当施設では教育というテーマもある。マネジメントでどう教育をやっていくかが、我々の課題でもある。もう少し追及していく。

(応募団体) HPリニューアルのポイントについては、ここ数年の世界的、国内、市の動きから見て、現状のHPは多言語化、モバイル対応ができていない、検索からもれてしまう等、客観的に見てリニューアルすべきと考える。

(構成員) 広告宣伝費を450万とされている。大手広告代理店との連携とは具体的にどういったものか。

(応募団体) 門司港レトロの業務で付き合いのある広告代理店は数万人に対応できるノウハウがある。当社はそのような大手代理店へ業務を依頼できるパイプがある。小倉城でも広告代理店と連携している。各広告代理店に特長があるので、必要な部分だけ依頼していく。

(応募団体) 環境教育分野で、自然体感の仕組みはあるか。都市公害の問題について、今バーチャルで経験できることは良いと思う。一方、環境教育には自然の分野も入っている。できるだけ五感で感知して、環境のすばらしさを味わう、自然に出たのアクティビティや虫を触ったりといったダイレクトなものについて、バーチャルとどのように噛み合わせるか。

(応募団体) それは我々も、一番今取り組もうとしているところ。自然の360度VRなど、自然の中でコンテンツを作り、ここで子供たちに体験して頂き、その体験を活かして、自然にもう一度行って頂くと、そういうものを考えている。

○ 構成員は、応募団体(チームZ共同事業体)による提案に関するプレゼンテーションと質疑応答を受けて、各自評価レベルを記入。

- 応募団体（タカミヤ・里山・エックス共同事業体）による提案に関するプレゼンテーション
- 応募団体（タカミヤ・里山・エックス共同事業体）の提案に関する質疑応答

(構成員) SDGsには17の目標と169のターゲットがある。どのような順序で、まずスタートは何から取り組むか。2030年で区切っているがそういったシナリオはお考えか。

(応募団体) SDGsモデル都市に選ばれているが、北九州市での認知度は低い。地元の企業に知ってもらうように普及啓発活動を行い、皆さんに考えてもらう。SDGsカードゲームは難しくないのが有効に活用していきたい。

(構成員) 人材育成などミュージアムの培ってきたストックをいかに生かすのか。SDGsの目標全部に取り組むのは大変と思う。

(応募団体) 順番にやっていくのではなく、SDGsの目標は全部が絡み合っているのので、統合的に課題解決の取組を理解していただく。

(構成員) 過去の実績はあるが、長年やるとマンネリの打破が課題となるがそのことを意識していることは評価している。中々、人材を育成し、確保していくことは難しい。研究員制度をあげているがどのように行っていくのか。

(応募団体) 今回、エックス都市研究所は新たなパートナーとしてやっていくが、国内各地や海外で環境まちづくり分野に取り組んでいる。また、館長を中心に「青空学」に取り組んでいるが、それは北九州市の公害克服ということにフォーカスしている。深くやるのもよいが横浜、大阪、四日市がどうなのかみたいな相対比較をやることで理解を深めることができる。

(構成員) 環境ミュージアムは小学校4年生が集客のメインであると思うが、小学校の授業と連携している点は良いと思う。一方、高校と大学については、大学生が卒論を書けるような研究的な役割も重要と考える。市民の方でも、大学の図書館に来て勉強されている人もいる。公害関連施設のネットワークがあるが、そういったところに入って、理論的に詰めている人がいるので、専門家集団と連携して勉強することも重要と考える。また、北九州空港ができて、もっとインバウンドを入れようとしている。北九州は環境で有名であるので、観光だけでなく、やはり環境学習で学んだものを現場に持ち帰ってもらって、原動力になってほしい。多言語対応も提案がなされているが、もっと引き寄せて、海外からの来館者も意識した視点を取り入れることも必要と考える。また、教育員会と環境ミュージアムをどのようにリンクしていくか、ミュージアムがあるから教科書が生きるということを、調査研究することも意義があると思う。このような取り組みができるか。また考えを持っているか。

(応募団体) 環境学習については現在、韓国と連携している。また、JICAの研修で東南アジア、アフリカの方がここに来て研修する「海外青年協力隊」の派遣のための環境教育をここで行っている。やっと礎ができた。ますます理論的にするためにエックス都市研究所に入ってもらってそれを展開していく。構成員のおっしゃるような取り組みは可能である。

(構 成 員) 「地球の道」は有料利用が伸びず、利用料金を2,000円から500円に下げてもやはり爆発的には利用者が増えていない。新しいプログラムを開発実施と書いているが、具体的にどのように行っていくか。

(応募団体) 「地球の道」はフルコースで90分かかるので、それをショートバージョンにすることが一つ。また「いのちのたび博物館」とうまくリンクして、ここで地球の歴史を見てもらって、実際には「いのちのたび博物館」で見ってもらうことを模索中である。その場合も「地球の道」の料金は500円のみである。

(構 成 員) エックス都市研究所が入っても調査研究費が少ないのではないか。

(応募団体) シンクタンクといわれているが、シンクタンクの中にドゥータンクの機能を持ちたいと思っていた。職員がガイドの見習いをやってみる。SDCC(持続可能社会共創センター)という研究機関を作り、高校と大学の学びができるようなプログラムを用意し、中身の充実、地方との比較の中で充実していきたい。この予算の中でやっていく意義はある。

(構 成 員) 貴団体の考える「市民環境力」とは何か。また、人員配置計画の中で非常勤のボランティアで人件費が0の人がいるのと、時給で換算すると1万円になる人がいてその差が大きい但实际上にはどのようにするのか。

(応募団体) 「市民環境力」については自らが考えて解決する力と思っている。婦人会が自分たちで考え、公害克服に繋がったことがコアだと考えている。これは色々なことに変換できる。人員配置については、各母団体から人員のお持ちよりを考え、様式上の数字ではこのようになった。時給については、一年間の業務を一週間に割るとどうしてもこうなる。人件費が0の人は環境学習サポーターとは別である。

○ 構成員は、応募団体(タカミヤ・里山・エックス共同事業体)による提案に関するプレゼンテーションと質疑応答を受けて、各自評価レベルを記入。

○ 構成員は、応募2団体の評価レベルを発表し、構成員全員で意見交換及び議論。

(構 成 員) タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、「SDGs大学」の展開に取り組みたいとのことだが、民間でSDGsに取り組むのは凄いこと。環境ミュージアムは環境問題に関するデータを収集、ビッグデータ化し、それにアクセス求めて賦課金を募るようなビジネスモデルもあっていいのではないかとも思った。

(構 成 員) チームZ共同事業体は、施設の管理運営に対する理念について、環境学習の点が弱いと感じる。“楽しい”コンテンツで集客するのは良いが、どのように人を育てるのかプロセスが見えない。環境関係の人材は、全部外に頼るよう感じた。

また、収支計画について、VRは面白いが、積算根拠が見えなかった。

(構 成 員) タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、これまでの経験、実績から管理運営に対する理念や安定的な人的基盤を有していると考えます。今までの実

績としても、若い人材を育てていると感じる。

- (構 成 員) チームZ共同事業体は環境分野への理解の不足が感じられる。
また、収入計画の有料イベントの回数や「地球の道」の利用人数等について、実現可能性が低いと感じた。
- (構 成 員) タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、今までの経験から信頼できる実績がある点は評価できる。ただ、エンターテイメント性に欠けると感じた。
マンネリ化の打破と言う割には、今までやってきたことの延長でマンネリが続くのではないかと懸念する。新たに一般の人も行きたくなるような仕組み、楽しさが感じられない点は頼りなさを感じた。
- (構 成 員) 両団体の提案は対照的に感じる。タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、ものすごく環境に詳しい人がさらに良くできるよう伸ばしていくという提案であった。世間では、環境のことが良く分からない、関わったことが無い人は、置き去りになっていると思われる。そういう人達の0を1にするにはチームZ共同事業体なのではないかと感じた。
- (構 成 員) タカミヤ・里山・エックス共同事業体の提案は、“研究”という自分達がしたいことを入れていると感じる。本来業務も利用者視点を持って取り組まれない。
- (構 成 員) チームZ共同事業体の母団体の財務状況を見て、5年間の指定管理業務を任せられるか、継続性について不安がある。一方、タカミヤ・里山・エックス共同事業体については、ある程度安定した財務状況であると感じた。
- (構 成 員) 財務状況など継続的な運営についての視点は、極めて重要だと考える。
- (構 成 員) タカミヤ・里山・エックス共同事業体について、自分は最高評価を付けた項目は無かった点で残念。過去実績も安定し、人も育てているので、もう少し突き破るものが一つでもあれば良かった。
- (構 成 員) チームZ共同事業体について、イベント運営の経験はあるが、施設運営そのものを元請でやったことは無い点は弱いと感じる。広告代理店の活用などでカバーするとのことだが、計画性に不安がある。
- (構 成 員) タカミヤ・里山・エックス共同事業体も高い評価だったと思われては困る。
マンネリ化は打破できていないのではないかとこの不満は残っている。

○ 構成員は、審査項目ごとの議論を踏まえ、各自評価レベルを再考し記入。

○ 各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各審査項目の評価レベルを、

1 「指定管理者としての適性」のうち、

(1) 施設の管理運営に関する理念、基本方針について

チームZ共同事業体は、3

タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、4

(2) 安定的な人的基盤や財政基盤について

チームZ共同事業体は、2

タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、4

- (3) 実績や経験などについて
チームZ共同事業体は、3
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、4
- 2 管理運営計画の適確性に関する有効性のうち、
- (1) 施設の設置目的の達成に向けた取組みについて
チームZ共同事業体は、3
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、4
- (2) 利用者の満足度について
チームZ共同事業体は、3
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、4
- 効率性のうち、
- (3) 指定管理料及び収入について
チームZ共同事業体は、3
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、3
- (4) 収支計画の妥当性及び実現可能性について
チームZ共同事業体は、2
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、3
- 適正性のうち、
- (5) 管理運営体制などについて
チームZ共同事業体は、3
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、4
- (6) 平等利用、安全対策、危機管理体制などについて
チームZ共同事業体は、3
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、3
- が妥当であると決定した。

- 事務局は地元団体に対する優遇措置を反映させたうえでの合計得点を発表。
チームZ共同事業体は、62点
タカミヤ・里山・エックス共同事業体は、78点

- 検討会としての検討結果（総合的な所見）について、
各団体の審査項目毎の評価レベル及び合計得点の比較により、検討会は、タカミヤ・里山・エックス共同事業体が北九州市環境ミュージアムの指定管理者の候補としてふさわしいと考える。
ただし、タカミヤ・里山・エックス共同事業体の提案は、マンネリ化の打破に課題を残すと考えるので、利用者視点を持って本来業務に取り組むとともに、さらに創意工夫ある運営を求めたい。

- 最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。